

# 日本図書館情報学会会報

No. 204

2026年2月

日本図書館情報学会事務局（編集：総務委員会）  
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京 2-1-1  
相模女子大学 金井喜一郎研究室内  
（事務局業務に関する問合せ先）  
（株）ガリレオ 学会業務情報化センター内 日本図書館情報学会  
E-mail : [office@jslis.jp](mailto:office@jslis.jp) 学会ウェブサイト : <http://www.jslis.jp/>  
ゆうちょ銀行 口座番号=00160-5-0045759 口座名義=日本図書館情報学会  
ゆうちょ銀行019店 口座番号=当座0045759 口座名義=日本図書館情報学会

## 2026年度春季研究集会の研究発表申込について

日本図書館情報学会会長  
岸田和明

2026年度の春季研究集会は、立教大学池袋キャンパスで開催されます。現在、研究委員会のもとで日程調整等を進めており、5月下旬または6月前半の日曜日に開催する予定です。詳細が決定しましたら、『会報』（臨時号）、学会ウェブサイト、メールマガジン等でお知らせいたします。会員の皆様におかれましては、研究発表ならびに参加をご予定いただけますと幸いです。

なお、研究発表の申込は、申込時点で正会員・学生会員である者に限ります。そのため、未入会の方は、2026年2月20日までに入会申込を行い、3月1日時点で会員資格を得ておく必要があります。会員の皆様におかれましては、研究発表を希望される未入会の方々への周知をお願いいたします。

## 図書館情報学教育シンポジウムの開催

2025年度の「図書館情報学シンポジウム」は、三田図書館・情報学会との合同で、以下のとおり開催いたします。ぜひ、ご参加ください。

テーマ：情報リテラシーとAIリテラシー ～図書館情報学教育の視点から～

日時：2026年3月20日（金、祝日）午前10時～12時

場所：慶應義塾大学三田キャンパス、東館6階G-Lab（オンライン配信有）

趣旨：

1960年代における米国の図書館界でのビブリオグラフィックインストラクションを系譜とする情報リテラシー教育は、コンピュータおよび通信技術の高度化が進む中で、その重要性をますます高めている。高等教育におけるコアコンピテンスにおいて、コミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決

能力等と並び、情報リテラシーはその中核であり、その教育に対して図書館情報学は中心的な貢献を果たさなければならない。さらには、2017年に発表された Transformer モデルにより飛躍的に発展した人工知能 (AI) が、例えばサーチエンジンへの生成 AI の組み込みなどを通じて、情報の収集・選択・加工・活用に大きな影響を与えているという現状がある。生成 AI の利活用のための AI リテラシーの重要性が各所で指摘される中で、このシンポジウムでは、情報リテラシーと AI リテラシーの関係を整理しつつ、日本の大学におけるそれらの教育の方向性を探っていく。

発表1：事例紹介「初年次向け情報リテラシー教育の実践」

酒井由紀子氏（慶應義塾大学非常勤講師）・和気尚美氏（慶應義塾大学文学部）

発表2：話題提供「図書館情報学の関連領域における生成 AI の利用」

難波英嗣氏（中央大学理工学部）

発表3：論点整理「高等教育における AI リテラシー」

発表者未定（交渉中）

司会：

永崎研宣氏（慶應義塾大学文学部，三田図書館・情報学会プログラム委員長）

参加費：どちらかの学会の会員は無料，非会員は1,000円

参加申し込み（オンライン参加も）：<https://jmsympo260320.peatix.com>

※シンポジウム開催にあたって、大学の授業等での生成 AI の活用事例を、ぜひとも、ご提供いただければ幸いです。

<https://forms.gle/qZyFK49tgEFNsARV9>

シンポジウムに関する問い合わせ先：

日本図書館情報学会図書館情報学教育シンポジウム担当 岸田和明 [kz.kishida@keio.jp](mailto:kz.kishida@keio.jp)

## 『公共図書館の未来』刊行のお知らせ

出版事業検討ワーキンググループおよび編者代表  
須賀千絵

2025年12月13日、本学会による新たな出版企画「2030年代の図書館と情報サービス」シリーズの第1巻として、『公共図書館の未来—市民参画・連携・再編・メタバースの観点から—』（日本図書館情報学会発行）を刊行いたしました。本学会 Web サイト内の「刊行書籍」ページにおいて、PDF 形式で全文を無料公開しております。

本書は、これまで本学会が刊行してきた事典や論文集と異なり、電子書籍の形態で学会が自ら出版した点に特徴があります。電子書籍（オンライン資料）として国立国会図書館に納本し、国立国会図書館デジタルコレクションからも閲覧が可能です。

また本書のもう一つの新たな試みとして、初期キャリア研究者支援の取り組みの一環として、初期キャリア研究者から執筆者を募り、中堅研究者がメンターとして論文の完成まで執筆を支援する体制を採用しました。2024年9月に執筆者とメンターの募集を行い、選考を経て5名の執筆者（岩井千華，川

崎彩子，上釜千佳，宮崎高江，小谷祐仁) を決定し，翌 2025 年 1 月から 8 月にかけて執筆が進められました。メンターは本学会会員の中堅研究者 5 名が担当しました。刊行に至る経緯および各論文の内容につきましては，本書の「まえがき」をご参照ください。

本シリーズを企画した出版事業検討ワーキンググループ，第 1 巻の编者（メンター），そして 5 名のフレッシュな執筆者一同は，本取り組みを通じて学会の活動領域が一層広がり，初期キャリア研究者による研究がより活発になることを期待しております。会員の皆様からの忌憚のないご意見とともに，第 2 巻以降への積極的なご参画を心よりお待ちしております。

須賀千絵・今野創祐・大谷康晴・大場博幸・吉田昭子編

『公共図書館の未来－市民参画・連携・再編・メタバースの観点から－』

日本図書館情報学会 2025 年 12 月刊行

## 学会賞・論文賞・奨励賞の授与

第 73 回研究大会（於同志社大学）の折に，2025 年度学会賞・論文賞・奨励賞の授与式が行われました。受賞者は以下の方々です。授賞理由は『日本図書館情報学会誌』vol.72, no.1 に掲載予定です。

（受賞者・対象業績）

・第 54 回学会賞

根本彰『図書館教育論：学校図書館の苦闘と可能性の歴史』東京大学出版会，2024，291p.

・第 14 回論文賞

該当者なし

・第 54 回奨励賞

村上陽菜「国内医学分野における会議録の収集とその影響」『日本図書館情報学会誌』vol.70, no.3, 2024.9, p.109-124.

## 「学会活動に貢献があった者への感謝状」の贈呈

2025 年度会員集会にて，日本図書館情報学会は，託児サービス試行担当グループおよび初期キャリア研究者支援グループそれぞれに「学会活動に貢献があった者への感謝状」を贈呈しました。前者は研究大会および春季研究集会における学会員への託児サービス提供の試みに対して，後者は初期キャリア研究者への論文執筆支援のためのメンター活動に対しての感謝となります。それぞれのメンバーは下記のとおりです。

託児サービス試行担当グループ：岩崎れい，汐崎順子，下山佳那子，庭井史絵，橋詰秋子，池内淳，池内  
有為，佐藤翔

初期キャリア研究者支援グループ：今野創祐，大谷康晴，大場博幸，須賀千絵，吉田昭子

## 2026 年度研究助成の公募

研究委員会

本学会では、図書館情報学振興のために、会員が自発的に計画した研究調査の遂行ならびにその結果の取りまとめに要する経費の一部を助成する事業を実施しています。2026 年度は①『日本図書館情報学会誌』に原著論文として投稿を予定し研究を行っている者、②図書館情報学分野での科研費の申請を予定し研究を行っている者、③博士論文執筆のための研究に取り組んでいる者を主たる対象として次の要領で募集を行います。研究歴が浅い研究者、外部資金を得にくい条件にある研究者を優先的に支援します。またこれから研究が本格化する萌芽的研究も本助成の対象とします。ふるってご応募ください。

### 記

#### 1. 助成額

30 万円を 1 件の申請額の上限とし、一定の選考条件を満たした研究、2 件に交付予定。なお審査の結果、申請額が減額されることがある。

#### 2. 応募条件

- (1)本学会の個人会員が個人もしくはグループで行う研究であること。ただし、グループ研究の場合、研究代表者が個人会員であれば、研究分担者が会員である必要はない。共同研究の人数は 3 人程度とする。
- (2)応募者が申込時点で正会員・学生会員である者に限る。未入会者は、応募申込締切前の入会申込締切日となる 4 月 20 日までに入会申込を行い、入会の承認通知が届いた後に応募すること。
- (3)2027 年 3 月 31 日までに研究を終了させること。
- (4)2027 年 3 月 31 日までに所定の書式によって「研究成果報告書」「会計報告書」および領収書のデジタルコピーを提出すること。
- (5)以下のいずれかの要件を満たすこと。
  - a.応募者は、研究終了後 2 年以内（2029 年 3 月 31 日まで）に『日本図書館情報学会誌』に応募者が単著あるいは筆頭著者となる原著論文、研究ノート、展望論文のいずれかを投稿すること。
  - b.応募者は、研究終了の翌年度（2027 年度）内に代表者として科研費に応募し、その申請書を提出すること。
  - c.応募者は、研究終了後 3 年以内（2030 年 3 月 31 日まで）に博士論文を提出すること。
- (6)本研究助成を受けたことがある者は、以前の助成の要件が満たされている場合のみ、本年度の申請が認められる。

#### 3. 選考および選考後の報告義務

- ・「研究助成申込書」に基づいて研究委員会が選考する。結果は応募者に直接通知するとともに、会報に助成者名と研究題目を掲載する。
- ・助成者は研究終了後 1 ヶ月以内に、デジタル化した報告書と領収書を研究委員会に提出すること。
- ・助成者は 2.応募条件に示された要件を満たした時点で、すみやかに研究委員会に報告すること。もし要件を満たせない事情が生じた場合、各応募条件の要件となる締切期日の 1 ヶ月前までに研究委員会に連絡すること。その際は、然るべき措置を講じる。

#### 4. 応募方法

学会ウェブサイトから研究助成公募申請フォーム（2026年3月上旬に掲載予定）にアクセスの上、申し込む。申請に必要な応募項目は以下の10項目を予定している。

(1) 提出日

(2) 研究代表者の情報

氏名

ふりがな

所属

会員種別

E-mail

(3) 研究分担者の情報

氏名

ふりがな

所属

役割分担

※共同研究の場合のみ、研究代表者以外の研究分担者全員を記入する。役割分担は、研究の実施計画に対する分担事項等を具体的に記入すること。

(4) 研究題目

(5) 申請金額（円） ※上限 30 万円

内訳（円）

資料購入費・機器購入費・印刷複写費・旅費・消耗品費・謝金・その他の各金額を示すこと。また、研究計画と経費の整合性を明らかにすること。

(6) 研究の目的（700字程度）

この研究助成を希望することによって、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記入する。

(7) 研究の意義（500字程度）

この研究の学術的な特色・独創性および期待される成果等について、具体的に記入する。

(8) 研究の実施計画（800字程度）

研究目的を達成するための計画・方法について、①これまでの準備状況、②本研究助成金との関連性、の二点を含めて具体的に記入する。研究目的との整合性を明らかにすること。

(9) 研究成果の発表時期と方法（200字程度）

2. 応募条件(5)のいずれを予定しているか具体的に記入する。

(10) 特記事項（200字程度）

例えば「大学院生であるため科研費の応募資格がない」等、この助成が必要な特別の事情などがあれば、記入する。

#### 5. 応募締切

2026年5月1日(金) 24時必着

#### 6. 補足

助成金の使途は、申請者が申請した研究テーマの研究遂行に必要な費用に限定するものとし、大学や

研究機関への間接経費の支出は想定していないが、特別な事情\*により、やむを得ず間接経費に充当する場合は事前に研究委員会に相談する。なお、間接経費は必要最低限とし、助成金の10%程度を上限とする。

\*特別な事情とは、外部資金は全て所属する機関が管理し、かつ、所属する機関において間接経費が必須である場合などを指す。

## 小田光宏先生を悼む

副会長・三浦太郎

2025年（令和7）12月2日、小田光宏先生が逝去された。この年5月に実践女子大学渋谷キャンパスで開かれた春季研究集会に参加され、また、8月にはカザフスタンで開催された国際図書館連盟（IFLA）年次大会で、ご病気を感じさせないお元気な姿を見せてくださっていた矢先のことであった。

先生は図書館情報学の領域で広く功績を残された。本学会で常任理事を2期（2002-08年）、会長を2期（2014-20年）、務められるなどしたほか、日本図書館協会（JLA）で図書館情報学教育部会長を3期（2013-19年）、理事長を1期（2019-21年）、歴任されるなどした。

本学会では、会員による積極的な学術的議論の喚起に注力され、学術コミュニティとしての学会活動の促進を図られた。その一環として、会長になられてから常任理事会組織体制を見直され、従来の研究・編集・総務の各委員会の委員長に加え、図書館情報学教育などの特命事項担当を設けられるなどした。

先生と初めてお仕事を一緒したのは、JLA 図書館情報学教育部会長になられた際に部会幹事となったときであった。その後も、本学会会長の時期に常任理事として、また、日本図書館文化史研究会代表（2013-17年）を併任されていたときに事務局長として、身近で接する機会を得た。物事を進められる際に丁寧さを心がけられていたことが印象的であった。学会事業として『図書館情報学事典』（丸善出版、2023）が編集・刊行された際は編集幹事を受諾され、企画段階からご協力いただいた。

JLA 図書館情報学教育部会長、および本学会会長でいらした時期には、それぞれの組織の運営面の課題、特に財政問題という難局面にも取り組まれた。JLA の教育部会では、いち早く指定寄付の枠組みを活用することに知恵をしばられ、部会運営のための財政基盤を築くことに尽力された。本学会会長になられてからは、1期目の当初、前期に出来た会計処理の過誤などの問題に中心的に対応され、学会運営の正常化を実現された。また、経年的な予算収入の減少が明らかになる中で、2期目に30年ぶりとなる会費改定を進められた。改定にあたっては、会員からの意見聴取を進めた上で1年以上の検討期間を設けられ、そこには先生の丁寧な姿勢がよく反映されていた。

先生とは同じ研究室の出身であったが、ゼミを一緒したり授業を拝聴したりする機会はなかった。ただ一度、2018年12月にこちらの本務先でレファレンスサービスに関するシンポジウムを実施した折に発表いただいたことがあった。思い起こされるのは、先生があえて壇上から離れ、フロアの通路を歩き来しながら、ときに言葉遊びを交えながら、学生たちの目をしっかりと見て話されていた姿である。

先生、どうぞ安らかに眠りください。合掌。

## 役員会等の記録

### 2025 年度第 4 回常任理事会（開催記録）

日時：2024 年 11 月 2 日（日）10:00～11:15

場所：Zoom によるオンライン会議

出席者：岸田，三浦，小山，浅石，金井，須賀，大場（記録）

欠席者：呑海

1. 各委員会等に関する報告・協議事項
2. 2025 年度予算執行状況
3. 今後の活動

### 2025 年度第 5 回常任理事会（開催記録）

日時：2025 年 1 月 25 日（日）10:00～12:05

場所：Zoom によるオンライン会議

出席者：岸田，三浦，小山，浅石，金井，須賀，大場（記録）

欠席者：呑海

1. 各委員会等の 2025 年度事業の総括および 2026 年度事業計画
2. 2025 年度予算執行状況・2026 年度予算策定方針について
3. 次期常任理事会への引継ぎ事項等の確認

### 2025 年度第 2 回理事会（議事抄録）

日時：2025 年 11 月 29 日（土）13:00～14:40

場所：Zoom によるオンライン会議

出席者：岸田，三浦，浅石，大場，小山，須賀，金井，青柳，安形輝，池内淳，池内有，

池谷，今井，大谷，小野，河村，中村，庭井，松林

委任状提出：安形麻，宇陀，佐藤 / 欠席者：呑海

1. 2025 年度定例（通信）総会の議案投票結果報告

2025 年度定例（通信）総会の成立ならびに議案成立が確認された。

2. 学会賞・論文賞・奨励賞の選考・授与

学会賞，論文賞，奨励賞の選考過程について報告があり，学会賞 1 件，論文賞該当なし，奨励賞 1 件が提案された。全て承認された。

3. 学会活動へ貢献があった者への感謝状の贈呈

託児サービス試行担当グループと初期キャリア研究者支援グループへの贈呈が提案され，承認された。

4. 2025 年度事業の経過報告（担当と報告内容）

- ・研究委員会：研究大会，研究大会シンポジウムの準備状況
- ・編集委員会：学会誌の刊行状況や学会誌の刊行状況，投稿編集状況
- ・総務委員会：会報およびメールマガジンの配信の状況
- ・図書館情報学教育に資する事業 WG：三田図書館・情報学会との共催企画の提案
- ・出版事業検討 WG：「2030 年代の図書館・情報サービスシリーズ」一巻の刊行予定報告
- ・会計担当者：会員・会費状況，会費補助申請

## 委員会・事務局より

### 学会賞選考について

昨年度第1回理事会において学会賞の対象を共著に広げることについて意見が挙がり、その後、学会賞選考委員会を中心に常任理事会で検討しました。検討過程では、研究意義の認められる共著や編著を評価する枠組みについて、「出版賞」創設の可能性なども検討しましたが、授賞体制の維持・継続に不安があるとの結論に至りました。単著文献を著した個人を表彰するという従来の学会賞授与の枠組みを原則としつつ、研究的意義の認められる共著や編著を評価する具体的方策として、会員から推薦が寄せられた場合に学会賞選考委員会の中で検討態勢をとることとしました。本年度第1回理事会においてこの方向性について了承され、学会賞の選考対象を「単著であること」から「原則として、単著であること」へ改め、昨年12月1日付で「学会賞選考委員会内規」を改正しました。来年度の選考から対応してまいります。

(学会賞選考委員会)

### メールマガジンについて

総務委員会ではメールマガジンを毎月二回、発行しています。掲載・講読希望の方は、総務委員会まで電子メール(somu@jslis.jp)にてご連絡ください。なお、掲載を希望する方は、PDFの添付ではなくメール本文に掲載内容を記してお送りください。

(総務委員会)

### 会報印刷版の2026年4月以降の受領希望の申し込みについて

現在会報はpdf版での発行となっています。ただし、希望者に対しては印刷版を郵送します。郵送を希望される方は総務委員会のアドレス(somu@jslis.jp)宛てに、「印刷版会報郵送希望」とのタイトルにて「氏名」「郵送先郵便番号および住所」の2点をご連絡ください。郵送についてはpdf版の発行後の送付となります。

(総務委員会)

### 2025年度の会費納入について

2025年度の会費払込用紙は6月号の学会誌に封入されておりますので、そちらを利用して支払をお願いいたします。

### 未納会費の納入について

2024年度の会費を未納の方はすみやかに納入してください。2023年度までの会費を未納の場合は、2024年度と合わせてできるだけ早く納入してください。なお、会費を3年滞納した会員(学生会員は2年)については、その年度末(3月31日)に会員資格停止の手続きを行います。次年度から会員としての権利を失いますのでご注意ください。また、会費を1年滞納(当該年度末を超えて滞納)した場合は、機関誌の配付を一時停止します。

そのほか、学生会員で2025年4月以降に所属が変わり正会員へ変更となる方については、判明後、すみやかに会員種別の変更手続きを行なってください。会費の金額が2,000円から8,000円に変わります。適正な会費をお支払いいただきますようお願いいたします。

### 【振り込み先】

ゆうちょ銀行 口座番号＝00160-5-0045759 口座名義＝日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019 店 口座番号＝当座 0045759 口座名義＝日本図書館情報学会

なお会費は、下記のサイトへログイン後、クレジットカードによる支払い（もしくは決済）が可能です。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/settlement/JSLIS>

ログイン後、「オンライン決済へ進む」を押していただき、クレジットカード情報をご入力いただき、「オンライン決済の実行」をクリックすると決済が完了します。どうぞご活用下さい。

(事務局)

### 会員情報変更・退会および会員情報管理について

住所、電話番号、所属先、メールアドレス等の変更については、学会ウェブサイトに掲載されているガリレオの会員情報管理システム (SOLTI) から直接変更していただくか、「会員情報変更」のページに掲載されている「会員情報変更申請書」にご記入いただき、事務局 ([office@jslis.jp](mailto:office@jslis.jp)) までメールでお送りください。

また会員種別の変更については、(1) 正会員から学生会員への変更の場合、当該年度の4月20日までに事務局に申請する必要があります。それ以降に申請しても、その年度は変更されません。(2) 学生会員から正会員への変更の場合、随時、事務局で申請を受け付けます。ただし、受付の時期によっては、正会員の権利の行使が制限されることがありますので、ご注意ください。また、受付後に年会費の差額を申し受けます。

なお、退会については特に書式はありませんので、電子メールにて、退会理由を併記のうえ、事務局 ([office@jslis.jp](mailto:office@jslis.jp)) までご連絡ください。毎年3月20日までに申し出がない場合、翌年度末での退会となり、1年分の会費請求が発生しますのでご注意ください。

(事務局)

### 『日本図書館情報学会誌』投稿募集

『日本図書館情報学会誌』の投稿先は以下のとおりです。投稿は随時、受け付けています。投稿に際しては「投稿規程」、「執筆要綱」、「『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール」をご参照ください。

(編集委員会)

- ・ 投稿先：日本図書館情報学会編集委員会 ([journal@jslis.jp](mailto:journal@jslis.jp))
- ・ 『日本図書館情報学会誌』投稿規程 2021年4月1日改訂  
<https://jslis.jp/wp-content/uploads/2021/01/tokokitei20210401.pdf>
- ・ 『日本図書館情報学会誌』執筆要綱 2016年10月8日改訂  
[http://jslis.jp/wp-content/uploads/2018/01/w\\_out\\_161008.pdf](http://jslis.jp/wp-content/uploads/2018/01/w_out_161008.pdf)
- ・ 『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール 2021年4月1日改訂  
<https://jslis.jp/wp-content/uploads/2021/01/rule20210401.pdf>
- ・ 日本図書館情報学会査読網領 2021年4月1日改訂  
<https://jslis.jp/wp-content/uploads/2021/03/sadoku20210401.pdf>

## 学会受領資料

紙幅の都合により、図書のみ記載しております。(編著者名の五十音順)

- 金沢みどり, 望月道浩 編著『学校図書館サービス論』勉誠社, 2025
- 汐崎順子 著『子どもと本をつなぐ: 子ども文庫と私立図書館』玉川大学出版部, 2025
- ニルス・ヴィンフェルト・ロン 著, 塩崎亮, 大沼太兵衛 訳, 根本彰 解説『ドキュメンテーション  
スタディーズ入門: 記録される知の理論のために』丸善出版, 2025

会員の皆さまが図書館情報学関係の著作を刊行された際には、可能であれば事務局（相模女子大学金井研究室[2026年3月まで]）まで1部お送りいただければ幸いです。書評対象文献の選定ならびに学会賞選考の際の参考とさせていただきます。

(事務局)